

平成 27 年度 自己評価結果

御池台こども園
園長 山口 喜孝

I. 平成 27 年度の概要

幼保連携型認定こども園への移行とその運営について着実な歩みの元年となることの基本方針のもと、教育・保育重点施策に、1.教育・保育計画について、2.職員体制の整備、3.保育教育活動の情報発信の再考、4.災害緊急時について、5.地域交流の推進、6.その他の以上 6 点を挙げ、園運営に努めた。

1.については、幼稚園教育要領及び保育所保育指針の整合性を確保して作られた、新たな幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて教育・保育課程を作成し、各クラスの計画に内容が組み込み反映され、日々の教育・保育活動に実践された。大きな改正点は、教育内容の充実や小学校への接続・連携事項が加わる等の内容となっているが、保育園時代から行っている実践内容なので戸惑うことなく進めることができた。

2.については、重点施策の中でも特に意識を持ったもので、各職員間のより一層の相互の連携や「和」を大切にする取り組みを行った。その一歩として、就労支援者の雇用を行い、清掃作業に従事してもらうことや、朝・夕の職務当番の一部を非常勤職員が担うことで、教育保育に専念できる職場の環境が少しずつではあるが整えることができた。

3.については、ホームページや園内掲示板で、日々子どもたちが活動している紹介を行った。それは、保護者や地域の方からの反響を耳にすることで、小さなことではあるが情報の発信として機能している事が実感できた。

4.については、継続した訓練を引き続き行いマンネリ化に陥らないための意識をもって取り組むことができたが、今回の九州での大きな災害発生を見ると、より具体的な取り組みが必要だと認識し、3 施設で今すぐできる災害対策案を出し実践するように決めた。

5.については、園設備を利用してもらうことが定着するまでになり、地域交流の推進の大きなものとなり、引き続き継続する。

6.については、年長児クラス（あやめ組）の 1 年を通しての教育・保育活動が、一人一人の育ちを見ながら、まとまりをもって日々の活動に取り組むことができていたことを特筆したい。それは、上記の方針をクラス運営に活かしていることが振り返ることで解り、方針・重点施策は、意識をもって日々の運営に活かすことが重要であることを再認識できた。

また、3月に堺市主催の造形活動を内容とした幼児教育実践発表を行うことができたことも、この年度の方針を活かした成果だった。主幹保育教諭が中心となり子どもの育ちをテーマに 1 年を通して造形活動に取り組んだことは、まさにこども園へ移行し運営について、子ども・保護者・地域・職員へのより良き関わりに繋がる着実な歩みの元年の一つの成果の表れになったことを付け加えておく。